

入選 低学年の部

お父さんの写真

京都府
ノートルダム学院小学校 三年

木下 瞬

「ほくのお父さんは、ほくが生まれた時、ほくの顔が時間とともに変化する様子を記録したいと思ったそうです。

だから、お父さんは毎日ほくの写真を撮ります。ほくが生まれた日から九年間、欠かすことなく同じアングルでデジカメ写真を撮り続けています。

何故同じアングルかと言うと、それが顔の変化を最も捉えやすいからだそうです。お父さんに、

「瞬、仰向け。」

と、言われると、ほくは仰向けになります。そして真正面から写真を撮られます。生まれた時には仰向けでしかいられなかったのが、いまだに同じ姿勢で撮られているわけです。ほくが覚えた言葉の中で、「仰向け」と言うのは、かなり最初の方にランキングされると思います。

お父さんはパソコンで画像処理して、ほくの顔が日々変化していく様子を見せてくれます。毎日の写真をパラパラ漫画にして見せてくれます。最初は赤ちゃんだったほくの顔は、いつの間にか赤ちゃんではなくなります。明確なター

ニングポイントはありませんが、どこからかほくはもう赤ちゃんではなくなっています。

お父さんは、顔のパーツを自動認識できるソフトを作りたいと言っています。それなら誰でも画像処理が可能だからです。

お父さんは、ほくが大人になったら子供に写真を撮ってもらえよと言います。どうやらほくは、死ぬまで写真を撮られる宿命を背負っているようです。

でも、生涯にわたって顔の変化を記録できたら、それはそれで貴重な資料になると思います。こんな暇こと誰もしないでけに、もしかしたら新しい発見に繋がるかもしれません。

そう思いながら、ほくは毎日、半分はお父さんのために、残りの半分はほくの為に撮影に協力しています。本当はほくにも「ありがとう」って言って欲しいところだけれど、どんなに仕事で疲れていても、ほくの記録を作る為に毎日写真を撮り続けるお父さんに、ほくは感謝しています。でも口に出して言うのは照れるから、この場を借りて言ってみます。「お父さん、ありがとう。」